

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人 佐世保地域文化事業財団	
施 設 名	アルカス S A S E B O	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	24,895	(千円)
公演事業	15,057	(千円)
人材養成事業	5,464	(千円)
普及啓発事業	4,374	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	声優朗読劇 フォアレーゼン「夏の夜の夢」	令和元年5月12日	朗読：南里侑香、田丸篤志、廣瀬大介、 チェンパロ：中野振一郎、 脚本：中野順哉	目標値	1,300
		大ホール		実績値	528
2	東京混声合唱団 佐世保特別公演	令和元年6月9日	山田和樹(指揮)、福間洸太郎(ピアノ)、 東京混声合唱団(合唱)	目標値	1,000
		大ホール		実績値	713
3	東京佼成ウインドオーケストラ	令和元年6月22日	和田一樹(指揮)、東京佼成ウインドオー ケストラ(吹奏楽)	目標値	840
		大ホール		実績値	752
4	レジデンス弦楽四重奏団 アルカス・クアルテット 第9回定期演奏会	令和元年7月20日	アルカス・クアルテット 川崎洋介、西野ゆか、柳瀬省太、辻本玲	目標値	300
		中ホール		実績値	229
5	To R mansion「にんぎょひめ」	令和元年8月17日	to R mansion(上ノ空はなび、野崎夏世、 丸本祐二郎)、CoppeliaCircus、やのみ (小心ズ)、チャタ、佐川健之助、遠藤昌 弘、藤田善宏	目標値	700
		イベントホール		実績値	334
6	アルカス九十九島音楽祭 2019	令和元年8月24・25日	市民出演者94組1210名	目標値	20,000
		全館		実績値	18,083
7	アルカスジャズカフェ アコースティック・ウェザ ー・リポート	令和元年9月6日	クリヤ・マコト(ピアノ)、 納浩一(ベース)、 則竹裕之(ドラム)	目標値	180
		イベントホール		実績値	214
8	京都市交響楽団 佐世保公演	令和元年9月8日	指揮：広上淳一 ソリスト：古澤巖(ヴァイオリン) 管弦楽：京都市交響楽団	目標値	1,100
		大ホール		実績値	673
9	エディクソン・ルイース コントラバス・リサイタル	令和元年9月29日	エディクソン・ルイース(コントラバ ス)、菊池洋子(ピアノ)	目標値	360
		中ホール		実績値	168
10	ランチタイムコンサートスペ シャル うたたねクラシック	令和元年10月27日	ふかわりょう(ナビゲーター)、 遠藤真理(チェロ)、三船優子(ピアノ)、 林美智子(メゾソプラノ)、川久保賜紀 (ヴァイオリン)	目標値	1,200
		大ホール		実績値	433
11	横山幸雄 ピアノ・リサイタル	令和元年11月3日	横山幸雄(ピアノ)	目標値	400
		中ホール		実績値	328
12	藤原道山×SINSKE	令和2年1月26日	藤原道山(尺八) SINSKE(マリンバ)	目標値	380
		中ホール		実績値	425
13	アルカス SASEBO オリジナル 室内オーケストラ チェンバ ー・ソロイスト・佐世保	令和2年2月23日	豊嶋泰嗣(音楽監督・ヴァイオリン) 他18名	目標値	450
		中ホール		実績値	266

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ランチ&おやつタイムコンサート アルプス音楽団	令和元年5月2日	アルプス音楽団／竹田年志、藤井裕子、家中勉、竹川由紀乃、熱田健	目標値	600
		中ホール		実績値	309
2	子どもミュージックマラソン	令和元年5月5日	158名(幼稚園・保育園児から小学生までの69組)	目標値	400
		中ホール		実績値	709
3	ドレミであそぼう！ ～0才からのクラシック～	令和元年6月29日	Adam／山下友教、太田大地、野原朝宇、奥野祐樹	目標値	286
		イベントホール		実績値	324
4	アルカス SASEBO ホール探検ツアー2019	令和元年7月22・23日	出演：亀子政孝(コントラバス)、野澤彩子(ピアノ) 協力：西九州舞台	目標値	130
		大・中・イベントホール		実績値	116
5	アルカス SASEBO ロビーコンサートスペシャル2019	令和元年9月23日	内夏美、樋口梨絵、和楽器デュオ Keika、ensemble Yori-Yori、梅野衣央梨	目標値	400
		中ホール		実績値	454
6	アルカス“キラっ都”させぼファミリーコンサート	令和元年12月1日	清水醒輝(指揮)、アルカス“キラっ都”オーケストラ(管弦楽)	目標値	850
		大ホール		実績値	429
7	ランチタイムコンサート ～住谷美帆サクソフォーンリサイタル～	令和元年12月6日	住谷美帆(サクソフォーン) AKI マツモト(ピアノ)	目標値	300
		中ホール		実績値	385
8	セレノグラフィカダンスワークショップ	令和元年11月～12月	セレノグラフィカ(隅地茉穂、阿比留修一)	目標値	60
		リハーサル室ほか		実績値	54
9	アルカス SASEBO ロビーコンサート	令和元年5月～令和2年3月	一般公募および運営委員からの推薦で選出	目標値	1,750
		エントランスロビーほか		実績値	1,120
10	アルカス SASEBO 文化茶話	令和元年5月4日 令和元年8月3日 令和2年3月22日	①山本裕康、諸田由里子 ②コロネりか ③クアルテット・エクセルシオ	目標値	540
		中・イベントホール		実績値	354
11	アルカス SASEBO 音楽アウトリーチ事業「演奏家がやってくる！」	令和元年6月～令和2年1月	上野裕介(クラシックギター) Twins(大橋理渚・梶原奈央)	目標値	600
		佐世保市内の公立小学校		実績値	970
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>【地域の特性】</p> <p>本市は九州の最西端、長崎県の北部に位置した、約 25 万人の人々が暮らす都市（市域 426.06 km²）である。平成 28 年 4 月には中核市へ移行し、基礎自治体としての機能を強化するとともに、平成 31 年 4 月には行政区域の枠を超え様々な分野での連携をもって圏域全体の維持・活性化を図る「西九州させぼ広域都市圏」の中心市としての役割を担うこととなった。</p> <p>【社会的役割（ミッション）】</p> <p>財団は指定管理者として、市から委託され「佐世保市文化振興基本計画」及び財団設立趣旨に則り運営を行っており、質の高い文化芸術にふれる機会の創出、市民の文化活動の活性化、地域文化を創造する人材育成等を社会的役割とし、来館者へのアンケートを基に会館の特徴を活かした鑑賞公演 18 本のほか、さまざまな市民参加型事業を実施。市民参加型事業も「普及」「育成」「交流」「創造」の 4 つの目的に即した事業 31 本（うち 2 公演中止）を行った。</p> <p>【事業の実施について】</p> <p>財団オリジナルで企画運営する、アルカス SASEBO オリジナル室内オーケストラ「チェンバー・ソロイスツ・佐世保」、レジデンス弦楽四重奏団「アルカス・クァルテット」、「アルカス SASEBO ジュニアオーケストラ」を鑑賞・普及・育成事業の柱に、音楽アウトリーチ事業やホールボランティア事業、バリアフリー事業、演劇や伝統文化など多様な文化に誰もが触れられるよう、また、それぞれが関わり合いながらその輪を広げられるよう組み立て、ほぼ当初の予定通り実施できた。</p> <p>2 月 27 日の政府による新型コロナウイルス感染症対策の発表を受け、佐世保市教育委員会が佐世保市内小・中学校の 3 月 4 日（水）～3 月 24 日（火）の期間一斉臨時休業を決定。これに伴い、3 月の自主事業 1 公演（ロビーコンサート vol. 77/3 月 7 日）が中止となったほか、ジュニアオーケストラの 3 月 4 日（水）～3 月 24 日（火）までに予定していた練習を全て中止、3 月 24 日（火）～26 日（木）に予定していた合宿も「長崎県立世知原少年自然の家」の受入不可により中止となった。共催事業の劇団 HIT!STAGE 公演「田丸家をぶっ壊せ！」も主催者の判断により中止となった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>年間約 50 本前後の事業を実施。20 年の取り組みの中で、近年では買い公演に会館独自の企画である M プロジェクト（年間 1 人の作曲家をテーマとする）を付随させることで質が高い文化芸術にふれる機会を会館ならではの事業として昇華するなど、地方都市において困難な独自の事業展開に挑戦し、周知を広げることで来場者の高い支持を得ている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】目標：国内外で活躍する一流のアーティストを招聘し地方都市に居ながらも最先端の優れた文化芸術に触れる機会を作ること、佐世保から音楽文化を発信することを狙い、公演事業に取り組む。
満足度を維持しながら、10代・20代未満の観客層の増加を狙う。

結果：オリジナル楽団の「アルカス・クアルテット」「チェンバー・ソロイスツ・佐世保」に継続して取り組み、一流の演奏家が佐世保に滞在してオリジナルのコンサートを作り上げる過程を地域に開き音楽への親しみを増していただくとともに、全国のクラシック愛好家が佐世保に来たくなるコンサートを創造した。鑑賞事業としては、年間18本の公演を実施し、あらゆるジャンルの音楽文化を発信した。
満足度、来場者比率について、満足度は、昨年とほぼ変わりなく、充分満足していただける公演の提供が出来ていると考える。中でも、Mプロジェクト公演の20・30代が16.7%とその他の公演に比べ約2倍の集客となっており、これは初めて取り組んだ「声優朗読劇フォアレーゼン」の若い世代の集客増によるもの。また、年代別来場者比率の10代の集客増は、東京佼成ウインドオーケストラで、中高生の来場が多くあったことによる。

【人材養成事業】目標：多様な市民がホールを通じて文化芸術に能動的にふれることにより、地域文化の向上だけでなく、地域の絆を深め、将来的に地域を支える人材を育成することを目標に取り組む。

結果：○アルカス SASEB0 ジュニアオーケストラ／アウトリーチコンサート市内1回⇒市外1回：達成
平成30年度より開始したアウトリーチコンサートを、初めて長崎市内（長崎県庁）で実施。広く団の存在を知ってもらう機会となった。また、団には団員代表、団員副代表および各セクションのリーダーを設けており、彼らを中心に活動している。リーダー役を設けることでより一層協調性を身につけることに繋がっていると実感。今後もこの活動を通し、将来の地域を担う人材としての成長も促していきたい。
○アルカス演劇さーくる／WS参加者子ども20名⇒13名（達成率65%）・大人20名⇒12名（達成率60%）
目標は達成できなかったが、これまで演劇に携わったことのない人の参加があったことは大きく、これからの広がりが期待されるとともに、先の20周年記念事業へ向けた参加意欲も高められたと感じている。
○アルカス SASEB0 ホールボランティア／参加者増加（若年層の登録）：登録者数54名（目標70名）
結果は現状維持となったが、例年ホールスタッフとしての質の向上を図るため様々なセミナーを実施しており、令和元年度は特に障がい者の方も来館しやすいホールとなるよう、バリアフリーに関するパネルディスカッションやフィールドワーク、セミナーを実施した。ボランティアの活動を通して、障がい者についての知識を得る機会となり、日常生活においても障がいに対する意識が高まり地域にも広がっていくことを期待している。

【普及啓発事業】目標：無料で鑑賞できる公演や、低廉な料金で気軽に音楽を楽しむ公演、ホールデビューの機会となるような公演など様々な事業を実施する。

結果：アウトリーチの実施／目標：27回⇒38回（達成率140%）
アウトリーチ公演、無料公演、親子向け公演、参加型公演、シニア・一般向け公演と、様々な世代の方々により身近にホールの存在を感じてもらえるよう、また舞台芸術をより気軽に感じてもらうよう取り組んだ。アウトリーチコンサートでは出演者の特性も活かし、初めて米海軍佐世保基地で行った。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

平成31年度に計画した事業は、概ね事業期間・事業費共に計画通りに実施することができたと考えられる。事業実施までの流れにおいても、実施日の5~6ヶ月前に事業毎に戦略検討会議を行い、企画内容や収支予算を見ながら実施内容を固めている。チケットの販売促進なども状況を見ながら適宜会議を行い、目標が達成されるよう取り組んでいる。公演終了後には会議にて反省点を洗い出し、フィードバックすることで、次の類似事業に活かす体制を取っている。

【鑑賞事業】

ジャンルによって仕込み・リハーサルに要する時間は異なるが、台風の影響による移動時期・方法の変更以外、大きな変更なく実施できている。特に、オリジナルの「チェンバー・ソロイスツ・佐世保」「アルカス・クアルテット」については、会館での十分なリハーサル期間を設けており、じっくり作品作りが出来る環境を整えている。文化活動が盛んになる時期には、期待していた対象者も多忙になったり、公演日と行事が重なってしまうことも多く団体へのアプローチが出来ないことがあった。全ての条件を整えることは難しいが、公演日の見極めが重要だと感じている。

【人材養成事業】

ジュニアオーケストラは、小学生~高校生まだが在籍。学校の年間スケジュール等を把握し、練習や本番の日時を設定している。

演劇さーくるにおいても、対象者にとって参加しやすい時期や日時を設定するため、ターゲット毎にワークショップを実施するなど工夫している。

【普及啓発事業】

アウトリーチ公演、無料公演、親子向け公演、参加型公演、シニア・一般向け公演と、様々な世代の方々を対象に事業展開を行っており、それぞれが来館しやすい時間に設定、また会場の環境なども工夫しながら取り組んでいる。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

オリジナル室内オーケストラ「チェンバー・ソロイスツ・佐世保」、レジデンス弦楽四重奏団「アルカス・クァルテット」、「アルカス SASEBO ジュニアオーケストラ」を立ち上げ継続的な事業を行うこと、またクラシック音楽公演において年間を通して1人の作曲家をテーマに掲げる「Mプロジェクト」の対象公演にすることで、佐世保ならではの魅力を広く発信できたと考える。

開館時から様々な公演事業の企画やヴァイオリンセミナー等で深く関わっていただいている豊嶋泰嗣氏（vn）には、「チェンバー・ソロイスツ・佐世保」の音楽監督兼演奏家として、また、ジュニアオーケストラではミュージックアドバイザーを務めていただいている。豊嶋氏のご協力により地方都市にありながらも第一線で活躍している演奏家によるオリジナルの室内楽公演を実施できているほか、ジュニアオーケストラへの指導では、地域の子どもたちに対して第一線で活躍する演奏家ならではの質の高い教育を提供できている。

ジュニアオーケストラの普段の指導には地元演奏家が、ロビーコンサートの企画・運営には地元のピアノ・声楽・管弦楽器・和楽器の各ジャンルからロビーコンサート運営委員として、子ども茶道教室には表千家・裏千家・宗偏流・鎮信流の各流派の先生方が講師として参画しており、地域の様々な文化関係者の協力のもと運営している。

公演・人材養成・普及啓発事業のいずれも多様な文化に誰もが触れられるよう、また、それぞれが関わり合いながらその輪を広げられるよう取り組んでおり、文化拠点としての機能を最大限発揮できる事業を行えたと考えている。

【ボランティア活動奨励賞】

平成31年度（令和元年度）、アルカス SASEBO を運営するにあたって今では欠かせない存在となっているホールボランティア SAV（佐世保・アルカス・ボランティアの略）が、その功績を高く評価され、長崎県民ボランティア振興基金より表彰を受けた。

【地域創造大賞（総務大臣賞）】

令和2年1月、アルカス SASEBO の事業の中で特にクラシック音楽の普及により創造性豊かな地域づくりに貢献したということで、（一財）地域創造より、地域創造大賞を県・市とともに受賞した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

育成事業の「アルカス SASEBO ジュニアーケストラ」、市内の小学校に地元演奏家を派遣する普及事業の「音楽アウトリーチ事業 演奏家がやってくる!」、茶道四流派の協力のもと、子どもたちが日本の伝統文化にふれる交流事業の「こども茶道教室」など、地域の未来を担う子どもたちの育成に特に力を入れて取り組んだ。

平成 15 年から継続している全館を開放し市民が演奏を披露する「アルカス市民音楽祭（現・アルカス九十九島音楽祭）」、平成 16 年から行っている「ロビーコンサート」、そして平成 12 年のアルカス SASEBO 開館準備段階から市民の社会参画の機会として行ってきた「ホールボランティア事業」、様々な人が文化芸術に関わることで、誇りや生きがいを感じ、またその中で地域の絆を育み、その輪が広がっていくことで地域の未来がより明るいものとなることを期待し、日々努力と工夫を重ねてきた。

平成 31 年度は、基地のある街・佐世保の特色を生かし、初の試みとなる、米軍基地内でのレジデンス弦楽四重奏団「アルカス・クアルテット」によるアウトリーチコンサートを国際交流もかねて実施し、メンバーであるカナダ在住の川崎氏による、英語での曲目解説や楽器の説明などを交えながら、多国籍の方々にも弦楽四重奏を楽しんでいただけるよう工夫して取り組んだ。小さな子どもから年配の方々まで、幅広い年齢層の方々に、室内楽の魅力伝える事が出来る機会となった。軍のテレビ取材も入り、演奏会の様子や今回の取り組みを基地内の住民へ放送していただき、アルカス SASEBO の存在を広く知ってもらう良い機会となった。

また、セレノグラフィカダンスワークショップでは、こどもや大人、障がいを持った子どもたちに身体で表現することの楽しさを伝えることが出来た。特にアウトリーチを行った特別支援学校では教職員や保護者に対してもダンス・身体表現が障がい者（児）にとって地域との交流の接点になりうること、障がい者が地域で生活していくためのコミュニケーションツールとなりうることを伝えることができたと思う。障がいを持っていても教員や家族、地域の仲間などがサポーターとして関わることでその表現の幅が広がるということを感じていただけたのではないだろうか。

これらのことから、主に人材養成事業・普及啓発事業を中心に、実演芸術等の振興および地域の文化芸術の発展に寄与できたと考える。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

【人材面】

文化施設として専門性を高めるための外部研修に参加するほか、財団内での研修（市民参加型の催しの際には、管理部の職員にも事業部の業務に当たってもらっている）や、専門人材（音楽大学修了者）の新規採用を行った。

財団の中長期事業計画及び平成 30 年 6 月の障害者による文化芸術活動の推進に関する法律の施行を受けて、会館として障がい者を迎え入れられる体制を整えることを念頭に、令和 2 年 2 月には職員とホールボランティアを対象に南部充央氏（一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構）を講師に招き、バリアフリー研修を実施した。セミナーでは、障害の種別・特性、サポートについてお話しいただいた。今後も継続して実施することにより、目的を達成したいと考えている。

開館準備段階より活動を行っているホールボランティアは、毎年度の登録制となっており、接遇研修や消防・防災訓練への参加を重ね、社会に貢献できる人材の育成の場となっている。

登録者数：54 名（令和 2 年 3 月末現在）

【財務面】

財源確保の取り組みとして、平成 16 年度よりオフィシャルスポンサー制度を導入。総額の内一部を公演への協賛金としていただいている。

ジュニアオーケストラの活動についても、法人・個人のスポンサー制度を設けており、いただいた資金は楽器購入・運営資金として使用している。年 1 回の定期演奏会、開講式への招待のほか、写真や報告書において活動の様子をお知らせし、支援の継続をお願いしている。

アルカス SASEBO の友の会組織である「アルカスクラブ」は、ゴールド、オレンジ、ホワイトの個人会員 3 種で運営しており、会員限定バスツアーや優待公演を実施している。

会員の男女比は男性 25%、女性 75%で、年齢層は最も多く占めているのは 60 代 33%、次いで 70 代 25%、50 代 19%と 50 代以上の方が全体の 77%を占める。そのため、地域の人口減少に伴い、年々減少傾向にあり、会員入会促進のための対策などが必要だと考えている。

会員数：ゴールド 1,089 名、オレンジ 275 名、ホワイト 827 名 計 2,191 名（令和 2 年 3 月末現在）

【各方面とのネットワーク】

九州類似ホール連絡会に在籍しており、定期的な会議への出席、情報の共有を行っている。また、地域の教育機関との連携も行っており、長崎県立大学、長崎国際大学からのインターン生の受け入れを行った。

また障がい者にやさしいバリアフリーなホールづくりを目指し、長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科 協力のもと「地域に住むさまざまな障害を持つ方を招いてのパネルディスカッション」「アルカス SASEBO のバリアフリーを調査！館内フィールドワーク」を実施した。